

消化器内科後期研修プログラム

<目標>

消化器内科医の育成のための総合トレーニングを研修の目的とし、合わせて内科認定医取得の症例確保も視野にいて後期研修を実施する。

<プログラム>

研修期間は基本的に1年コースと2年コースの2種類があります。2年目研修内容については1年終了時に相談に応じます。

診療体制は上級医にコンサルトしながら進めますが、基本は主治医制とし入院から退院まで責任をもった診療体制とします。

救急の当番医体制も常勤医同様に参加します。

外来は週一回、主に新患を中心に担当します。外来以外の日は午前中は内視鏡、エコーを午後は特殊検査、病棟勤務となります。

1年コースは内視鏡ら消化器内科に必修の検査の習得、代表的な消化器疾患の診断、治療を目的に行います。具体的には手技研修として

消化管	上部内視鏡	200例	下部内視鏡	100例		
肝膵胆	肝生検	10例	ERCP	5例	血管造影(診断)	10例

を到達目標とします。

また日本消化器病学会より消化器内科医として経験すべき症候の診察、疾患の診断と治療は経験できるように配慮いたします。

2年コースは1年コースを基礎により難易度の高い検査、治療手技が習得できることを目標とします。

具体的には2年間通しての手技研修として

消化管	上部内視鏡	500例	下部内視鏡	200例		
肝膵胆	肝生検	20例	ERCP	10例	血管造影(診断)	20例

を到達目標とします。

さらに2年目には治療、処置を中心に

消化管 上部EMR、下部EMR、ポリペクミ、内視鏡的止血の習得

肝膵胆 肝腫瘍局所治療、TAE、EST、ステント挿入らの習得

を到達目標とします。もちろん日本消化器病学会より消化器内科医として経験すべき症候の診察、疾患の診断と治療についてはグレードBまでのす

べてと一部Cまで経験できるように配慮いたします。

学会発表は地方会を主に最低年1回をノルマとします。また2年目に当施設で症例数の不足している手技習得のための他施設研修や総合内科医としての経験を積むために循環器科や呼吸器科での研修についても考慮いたします。